茨木市立　太田小学校　学力向上ステップアップ計画

平成２４年３月作成

1 学力向上ステップアッププラン１年目（H２３年度）について

1 児童・生徒の状況

（1）学習事項の定着（学力）について

（成果）

・算数 A・B、国語 A・B 全てのテストにおいて府平均より正答率は良かった。全体的に見れば基礎的な学力は定着していると思われる。

・自分の考えや、ふり返りをノートにまとめたり、友達に説明したりする機会を設けるよう取り組んだ成果が出ているのではないか。

（課題）

【国語において】

（下回っているものや無回答率の高いものへの指導に関して）

・読むことについては、ポスターや取扱説明書などの題材から数やキーワードなどに着目させるなど、必要な情報を収集・整理し、的確に読ませること

・聞くことの指導に当たっては、日常生活の中でコミュニケーションを大事にすると共に、あいての意図や要点をつかみながら聞かせること

・文学的文章を読むことを引き続き、登場人物の行動、会話、情景などの言葉に着目し、人物間の関係を意識しながら読ませること。

・人物描写や情景描写をとらえ、表現の特徴やその効果についてキーワードを用いながら、限られた文字数で書く活動を充実させること。

・これら四点の指導の工夫が必要と考える。

【算数において】

・「図形」の領域は他の領域に比べ正答率が低く、三角柱の特徴や円周率の意味についての理解に課題がある。公式にたどり着くまでの過程や公式の意味を理解しているかどうかというところに課題を感じられる。

・割合を利用して、帯グラフの長さを求める問題や、棒グラフと折れ線グラフ等で表される三つの量を比較して読み取る問題についての正答率が低い。帯グラフ・円グラフを作る経験を増やし、グラフについての理解を深める場面を算数ばかりでなく、他の教科でも設ける取り組みが必要であろう。

【全体として】

・今後は引き続き、「根拠をあげて文や言葉で説明する」「発表内容や方法を検討し、よりよいものを身につける（学びあう）」「要約する」「きちんとした話し方を身につける」など、依然として残っている課題を追求していく必要がある。

・全体的に見れば引き続き良好な結果であった。今後もより一層、学びあう集団作り、家庭との連携を大切にしていきたい。

（2）「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

（成果と課題）

「ゆめ力」

・ほとんどの児童が目標を持っており、府平均を上回っている。しかし、夢をもっていない児童もおり、キャリア教育の益々の推進が望まれる。

「自分力」

・「人の役に立つ人間になりたい。」、「人の気持ちがわかる人間になりたい。」等は府平均に比べて低い割合である。「自分の気持ちを分かってくれる友だちがいる。」、「自分は幸せだ。」と思う割合も低い。対人的

モチベーションが低いと言える。その一方で、自分を肯定的にとらえ、違う人間になってしまいたい子の割合は低く、 自分を肯定的にとらえている。物事を最後までやりとげてうれしい経験を多くの子どもが持っている。励まし、ほめていくことで児童に達成感を味わわせることにより、自信を持たせていきたい。

「つながり力」

・例年地域の行事に参加している割合が高い。

「あなたの気持ちを分かってくれる友だちがいる。」の項目では、否定的な回答が府平均より高くなっている。友だち関係に自信がなく、問題を抱えている児童が多いように思われる。

「学び力」

・「算数が好き」と答えた児童の割合は 8 割をこえ、意欲的である。問題解決型の学習をすすめている点が関係か。「学習したことを普段の生活に生かそうとしている」の項目は、府平均より低い。算数で学んだことは、算数の時間のみ活用という傾向がある。生活に生かす視点を持たせたい。

・府平均に比べ、「国語が好き」と答えた児童の割合が低かった。また、「考えをつたえるための話の組み立てを工夫する」、「考えの理由を明らかにしてかく」などの項目がやや低いポイントであった。今後改善をして、ポイントを高めていく必要がある。

(生活等に関する課題)

・高い割合で、家族に気持ちを分かってもらっていると感じ、早寝、早起き、また家の手伝いもする割合も高い。規律正しい、家庭生活を送っているようだが、休日にはゆっくり寝たり、昼寝をしたり、音楽を聴いたり等のゆったりした生活をしていない。

・「学校の決まりを守っていない・どちらかといえば守っていない。」

「友達に会うのは楽しくない。」

「人の気持ちがわかる人間になりたくない。」

いじめについて肯定的な児童もいる。

など、少数ではあるが存在する。支援教育の視点を大切にしながら、学級集団作りや人権教育に取り組む必要がある。

・また半数近くの児童が、携帯電話を持っていることから、今後使い方のルール指導について保護者にも啓発していく必要がある。

２ 学校の取組

(成果)

・朝学習は定着しており、各学年で落ち着いて学習できている。基本的な知識・技能は身につけられている。また、コミュニケーション能力を高めるため、グループ学習を行っている。ふりかえりの習慣も定着しつつあり、学習したことを整理できるようになってきた。

・読書タイムは児童の読書への関心を高めたようだ。今年度から、年度末に冊数などを書いた表彰状を全児童に配布予定である。読書についてのモチベーションを高めるきっかけになってほしい。

・スクールスタンダードの作成

・・・話し方・聞き方・読み方のルールの確認、目指す授業像・学級集団像を共有できつつある。

・学年部会、各委員会が協力して取り組んでいる。研究授業についても学年で取り組み、必ず支援の視点をいれ、どの子もいきいきできる学習をめざして研究を進めている。

(課題)

・授業力のさらなる向上。

・スクールスタンダードづくりの推進。

2　これから３年間（H23～25 年度）の取組について

1　３年間の重点課題

	重点課題	検証軸	２５年度の到達目標
①	児童一人ひとりが基礎学力を身につけ、主体的に学習する。	茨木市算数診断テスト・漢字マウンテン（本校独自の漢字テスト） 全国学力テスト	学力状況の上方への傾向定着化を図る。 「書く力」をつける。
②	一人ひとりの違いを認め合い、支えあう集団をつくる。	全国学力テスト（児童質問）	前の３ヵ年計画であきらかになった課題の項目の数値を向上させる。
③	運動にいきいき取り組む児童を増やす。	アンケート	体育好きな児童の割合の数値を向上させる。
④	児童一人ひとりが基本的な生活習慣を身につける。	全国学力テスト（児童質問）	「自分力」に関わる項目の数値を向上させる。
⑤	英語活動を通したコミュニケーション力（つながり力）の育成	アンケート等	積極的にコミュニケーションしようとする態度の育成

2　３年間の取組計画

３年間共通の計画	年度ごとの計画	
①　全学年による公開授業 ・研究授業の計画的に実施し、実践の交流を通したスクールスタンダードづくりと学力向上 ・英語活動を通した学力向上 ②　朝学習の充実 ・算数科及び国語科の基礎・基本の定着 ③　生活習慣定着のための啓発 ・家庭に積極的に働きかける。（学校・各担任） ④　課題を有する児童・保護者支援（専門支援員） HO ットルームを設置し、支援の必要な児童への個別指導と保護者支援を行う。 ⑤　読書タイム（朝の時間に設定） みんなの本箱　読書ボランティア ⑥　体力向上 ・授業力向上 ・体育的行事の見直しと充実 ⑦　児童の活動が見える場の設定 ・参観日を利用するなど	平成23年度	・推進体制の整備 ・努力目標の設定 ・学校教育自己診断等の活用 ・「使える英語プロジェクト」の取り組みと効果検証 ・体育アンケート実施 ・スクールスタンダードづくりの推進
	平成24年度	・３ヵ年の計画の中間総括
	平成25年度	・３ヵ年計画の取組の検証

３ 推進体制

校長

教頭

運営会議・職員会議
全体の方針決定・情報の全体化

研究推進委員会
- スクールスタンダード作り
- 授業研究の実施・検証
- 朝読書の実施・検証

学力向上担当者

人権教育部会
- 人間関係づくり
- 集団づくり

生活指導部会
- 学校のきまり
- 生活習慣のチェック

体育保健部会
- 体力向上の取組・推進
- 健康な体づくり

支援教育委員会
- 授業のユニバーサルデザイン化の推進
- 個別の指導計画の有効的活用

外国語部会
- 使える英語プロジェクトの研究推進

学年部会
取組・検証